

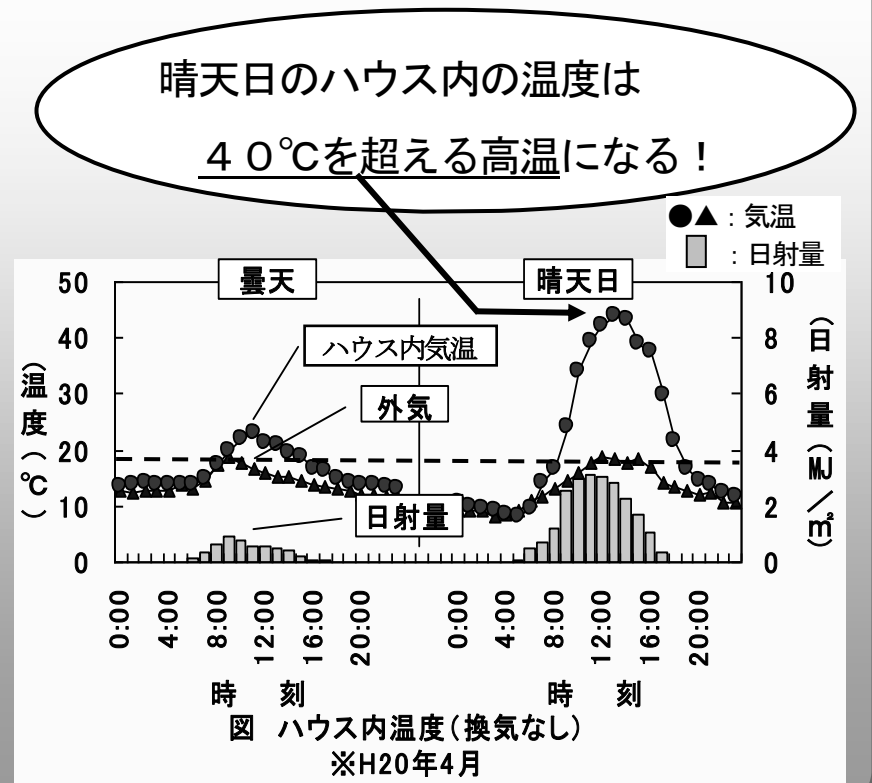
「あおば米」の品質向上のため、コシヒカリの田植えは5月15日を中心に！

- 苗が軟弱徒長ぎみにならないよう、育苗ハウスの換気を徹底する。
- 70株/坪の田植えで分けつの発生を促し、初期生育を確保する。
- 除草剤は使用前に必ずラベルを確認し、除草効果を高めるため遅れずに散布する。

1. 硬化期の育苗管理

～換気を徹底して、健苗づくりに努める～

- 日中のハウス内の温度は20～25℃を目安に管理する。
(特に、晴天日は早朝から換気する)
- かん水は朝1回を原則とし、床土の乾きに応じてかん水する。
(かん水過多は根張りが悪くなりやすいので注意する)
- 田植え7～10日前からは、10℃以下の低温にならない限り、昼夜ともハウスを開けて苗を外気に慣らす。
- 強風の際はハウスの風下側を開けるなど、苗に直接風が当たらないよう注意する。



2. 本田準備と病害虫防除

～田植えは代かきから5日以内に行う～

- 整地の良否は稲の生育や雑草の発生に大きく影響するので、耕起や代かきは丁寧に行い、田面の均平に努める。
- 代かきは田植え予定日の3～5日前に実施する。また、代かきは少なめの水で行い、稲わらなどの埋没に努めるとともに、濁り水は排水路へ流さないように注意する。

<育苗箱施薬> ～除草剤を間違えて育苗箱に散布しないよう注意しましょう～

対象品種	主な対象病害虫	薬剤名	散布量	使用時期
コシヒカリ てんたかく てんこもり など	いもち病、紋枯病、 イネミズゾウムシ、 イネドロオウムシ、 フタオビコヤガ、 ニカメイチュウ、 ツマグロヨコバイなど	ルーチンブライト 箱粒剤	50g/箱 (1kgで育苗箱 20枚分)	は種時(覆土前) ～移植当日

- ☆播種前に散布機の日盛を調整し、適量が散布されているか確認する。
- ☆育苗終了後の育苗ハウスで野菜を作付けする場合、薬剤散布は育苗ハウスの外に搬出してから行う。
(播種同時もしくは育苗ハウス内で散布した場合、育苗ハウス内で栽培した野菜が吸収し、残留する恐れがあります。)

3. 斑点米カメムシ対策(第2回)

～斑点米カメムシが好む雑草を田植え前から減らす～

- 斑点米カメムシ類は、主にイネ科雑草に生息することから、バスタ液剤やザクサ液剤などの除草剤を使用する場合、**田植え前までに**散布する。
- ※周辺の農用地や作物に飛散しないよう、散布方向・範囲に注意し、風の無いときに散布する。
- 除草剤を使用しない場合、**イネ科雑草の穂が出る前に**、こまめに草刈りをする。

4. 田植えと水管理

～初期分けつ確保には「適切な植付け」と「適正な水管理」が必要～

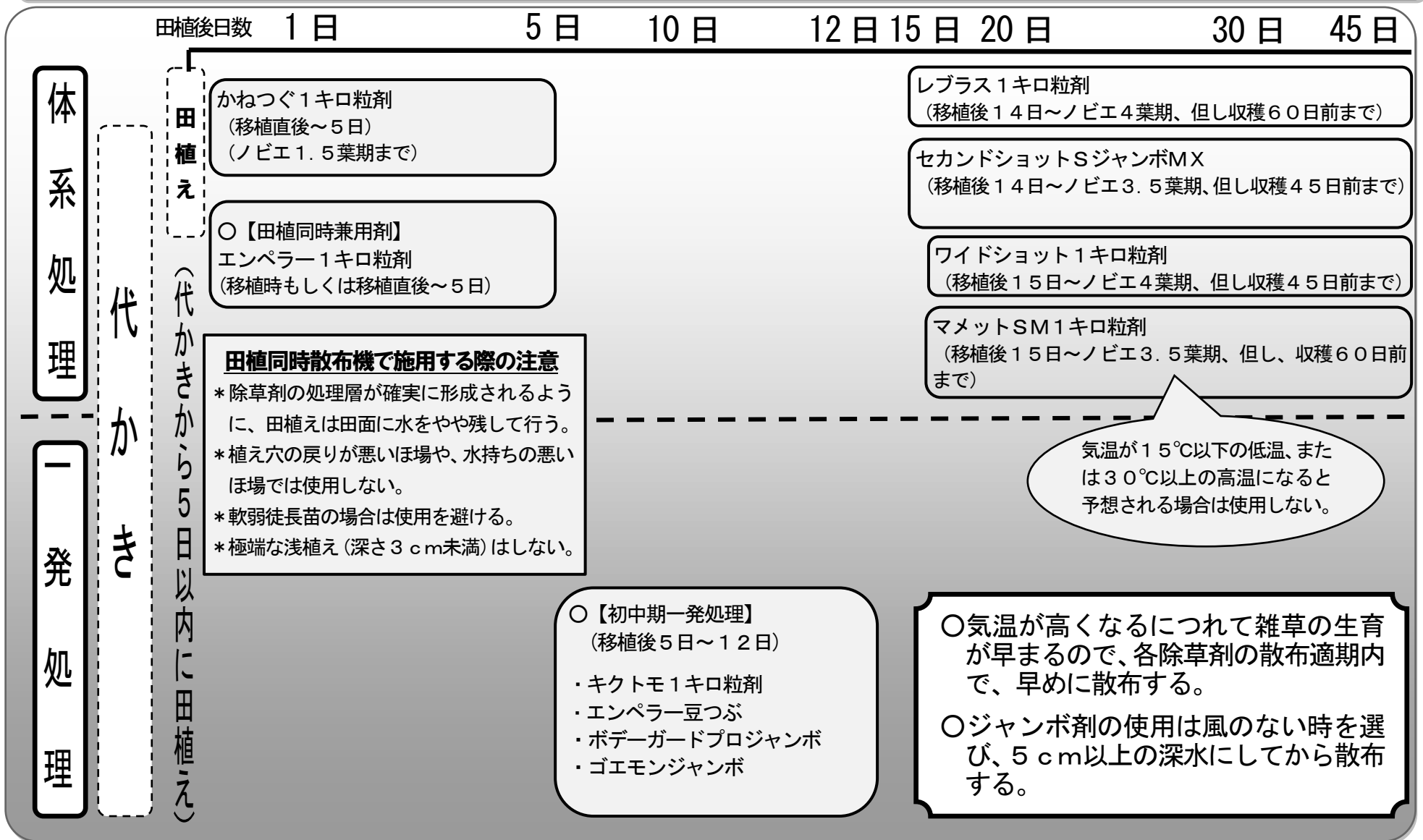
- 栽植密度は70株/坪**を基本とし、**植付本数は3～4本/株**、**植付深さは3cm**に調整する。
- 基肥量は、品種や土壌条件、前作などに応じた施肥基準を遵守するとともに、田植え前に施肥量の確認を行う。
- 活着までは**5～6cm**程度のやや深水にして植え傷みを防ぎ、田水温を確保する。
- 活着後は**3cm**程度の浅水にして、早朝に入水し、日中は止め水にして田水温を高める。



5. 除草剤散布は遅れずに

～使用基準を遵守し、ムラなく均一に適期散布～

- 除草剤の散布前に、畦畔や排水口からの漏水の有無を確認するとともに、漏水箇所を手直しする。
- 河川への農薬成分の流出を防ぐため、**散布後7日間は「止水管理」**にして落水しない。
- 散布後**5日間は湛水状態**を保つ。
- 雑草が多い場合は、「**体系処理**」で除草効果をさらに高めましょう。



★育苗や本田作業後は、忘れずに栽培履歴簿へ作業内容を記入しましょう。

水稻情報第3号の発行は5月27日(予定)